

日本赤十字社が「レプリコンワクチン接種後の献血をお控えいただく場合がある」と広報？ 接種後 48 時間で献血できる【ファクトチェック】

10/12 日本ファクトチェックセンター



元総務大臣で立憲民主党の原口一博氏が「日本赤十字社はレプリコンワクチン接種後の献血をお控えいただく場合があることを広報」と投稿しましたが、ミスリードで不正確です。

日赤は他のワクチンと同様に採血制限の時間を設けているだけで、レプリコンは接種後 48 時間で献血できます。

検証対象

2024 年 10 月 5 日、原口氏が「日本赤十字社はレプリコンワクチン接種後の献血をお控えいただく場合があることを広報(2023. 12. 22) 同社はレプリコンが今までのワクチンと違うことを認識している」と X (旧 Twitter) に投稿した。

投稿には原口氏が語る動画が添付されている。その中で原口氏はワクチン、特にレプリコンワクチンの危険性を主張しており、採血制限にも触れている。

この投稿には 10 月 11 日までに 33 万以上の閲覧と 600 を超すリポストがある。「大切な情報ですね」などとレプリコンワクチンの危険性を懸念する投稿がある一方で、「どんなワクチンでも接種後一定期間献血できないって今まで通りだろ」「国会議員が間違った情報を流すのはどうなんですかね」といった批判的なコメントもついている。

検証過程

ワクチン接種後は採血制限がある

血液事業に取り組む日本赤十字社は、新型コロナに限らず、ワクチン接種後は一定の時間が経過するまで献血を受け入れていない (採血制限)。

その理由について、採血制限を検討する厚生労働省「薬事審議会血液事業部会 (安全技術調査会)」は「献血する人の保護」「血液製剤の安全性の向上」の 2 つの観点からと説明する (厚労省「新型コロナウイルス感染症に係る対応について」)。

採血ができない期間はワクチンの種類によって異なる。

レプリコンワクチンの採血制限は 48 時間

ワクチン等の接種状況に応じた採血制限期間の現行の取り扱い

ワクチン等の種類	例	採血制限の期間
不活化ワクチン	インフルエンザ、日本脳炎、コレラ、肺炎球菌、百日咳、A型肝炎、狂犬病等	接種後 24 時間
弱毒生ワクチン	黄熱、麻疹、ポリオ、おたふくかぜ、風疹、水痘、BCG 等	接種後 4 週間
抗血清	破傷風、蛇毒、ジフテリア等	接種後 3 か月
B 型肝炎ワクチン		接種後 2 週間
咬傷後の狂犬病ワクチン		接種後 1 年

新型コロナのワクチンは、2024 年 10 月 1 日から 65 歳以上の高齢者などへの定期接種が始まった。これまでの mRNA ワクチンだけでなく、Meiji Seika ファルマ社の「レプリコンワクチン」が今回初めて使用される。

日本ファクトチェックセンター（JFC）は、厚労省血液対策課にレプリコンワクチン接種後の採血制限について取材した。

mRNA ワクチンは、2021 年 4 月の厚労省の薬事審議会血液事業部会安全技術調査会で、接種後の発熱などが多く見られる期間を考慮し、接種後 48 時間の採血制限が設けられた。レプリコンワクチンは 2024 年 9 月 27 日に、臨床試験の結果から接種後の副反応の発現時期や持続期間は従来の mRNA ワクチンと同等だと判断された。

また、血液製剤の安全性の点では、筋肉内注射した部位から mRNA が血中に排出される量は 48 時間で 1/100 にまで減衰するという報告に基づいて、採血制限は 48 時間となった（厚労省「新たに承認された新型コロナウイルスのワクチン接種者の採血制限について」）。

日本赤十字社もワクチンの採決制限の期間について、同様の内容を一覧にしてウェブサイトで公開している（日赤「一定期間内に予防接種を受けた方」）。

判定

「日本赤十字社はレプリコンワクチン接種後の献血をお控えいただく場合があることを広報」「同社はレプリコンが今までのワクチンと違うことを認識している」という言説は、ミスリードで不正確。日赤は、レプリコンワクチンを接種した人も他の mRNA ワクチン同様、接種から 48 時間で献血できると説明している。

あとがき

10 月 1 日から 65 歳以上の高齢者などを対象に新型コロナウイルスワクチンの定期接種が始まりました。今回から「レプリコンワクチン」と呼ばれる新しい mRNA ワクチンが使われるようになりましたが、このワクチンに対する偽・誤情報が多数拡散しています。

ワクチンを接種する際は、公的機関の発信を確認するなど、正しい情報をもとに判断することが大切です。検証：宮本聖二 編集：古田大輔、藤森かもめ